

コルザ

コルザはフランス語で「菜の花」

2017
3 月号
No. 380



ありがとう 40年！
つなげようサステイナブルな未来

ラブちゃん

画：さかいまなみ



コルザ 40周年記念号発行にあたり



理事長 木村庸子^{つねこ}

毎月発行している機関紙コルザでは組合員の活動報告を中心に千葉グループのお知らせやイベント情報などをお届けしています。今回は、生活クラブ千葉創立40周年を記念して行ったさまざまな活動について特集し、報告させていただきます。

生活クラブ千葉は1976年6月10日、組合員1,003人職員3人で、発起人である北角虎男さんの流山市のご自宅に事務所を構えスタートしました。40年前に加入し継続している組合員は72人いらっしゃいます。高度経済成長期を背景に、安心安全な食を求める人々に共同購入を伝え1989年2万人、1994年3万人と組合員を拡大してきました。その後社会の変化、個人のライフスタイルの変化もあり拡大は鈍化しましたが2015年のシステム改革を機に回復し、2017年1月末現在の組合員は40,363人(共済含む)です。

この間、地域社会の課題や世界の問題に対し常に「私たちにできることは何か」を問いながら、おおぜいの力を結集し事業と運動を続けてきました。また、課題解決に向けて地域に必要な機能として事業団体を作り出し現在虹の街を含む9団体で生活クラブ千葉グ

ループを形成し総合力で地域貢献に取り組んでいます。その千葉グループも2006年に協議会を結成し10周年になりました。

40年の歩みは本編の年表ダイジェストでお伝えしきれるものではありませんがご覧いただければと思います。組合員一人ひとりのなかに「私の生活クラブ」が存在しているのではないのでしょうか。

40周年を記念してどのような企画をするか2015年度の実行委員会で検討しさまざまなことを実行し、多くの参加とご協力をいただき無事にすべてを終えることができました。感謝申し上げます。各企画を通し40年の歩みにふれ、多様な世代の組合員や、生産者の皆さん、多様な活動をしている地域の団体や地域の方々と出会い交流する機会となりました。加入間もない組合員の参加と登場の場面もあり、新しい力も感じ嬉しい限りです。以下に記念事業を記します。

- ・キャッチコピーの決定
「ありがとう40年！つなげようサステイナブルな未来」
- ・ロゴマークの開発
FECをモチーフにしたデザインで組合

員公募により決定

- ・記念消費材開発
各ブロックで千葉県内生産者や団体と協力し17品目開発、千葉独自品として共同購入の取り組み
- ・子ども企画開催
各ブロックで多様な企画を開催し虹いろフェスタで展示報告
- ・消費材開発のお披露目会開催(9月)
「発表！オールちば40周年記念消費材」～見てふれて食べて一番乗り！～
- ・加入40年組合員表彰の会開催(10月)
「ありがとう！40年 未来へつなげよう虹いろセレモニー」
- ・記念誌発行・販売(11月)
『40年のものがたり』
- ・記念企画開催(11月)
「虹いろフェスタ」in 幕張メッセ
- ・40周年記念式典・千葉グループ10周年祝賀パーティ開催(2017年1月)

2017年度は次のステージに向けた1歩の始まりです。組合員4万人余りの小さな生活協同組合の私たちですが、世界が日本が地域が、より暮らしやすい社会になるよう社会モデルづくりにチャレンジし「サステイナブルな未来」をつくっていきましょう！

目次

コルザ 40周年期年号発行にあたり	2
40周年記念式典&祝賀パーティ	3
虹いろフェスタ	4~6
虹いろセレモニー、記念消費材	7
ブロック活動ファイル	8・9
千葉グループ&JFSA メッセージ	10~13
虹の街ヒストリー	14
虹の街の事業所紹介	15
虹の街のデポー紹介	16



理事会メンバー

40周年記念式典 & 祝賀パーティ

1月21日、東京ベイ幕張ホールにて、生活クラブ千葉40周年記念式典と40周年&生活クラブ千葉グループ協議会10周年祝賀パーティが開催されました。式典には、県内や県外からも生産者・他単協の理事長など240人が参加し40周年を祝いました。

・・・ 40周年記念式典 ・・・

木村庸子理事長の挨拶で記念式典が始まりました。司会は中井孝子・福住洋美両副理事長が務めました。



来賓の日本生活協同組合連合会会長の浅田克己さん、日本コープ共済生活協同組合連合会理事長の佐藤利昭さん、生活クラブ親生会会長の新田嘉七さんから祝辞をいただきました。

また、歴代理事長を代表して、上符玲子さん、新保ちい子さんから挨拶。上符さんは、「1982年に加入し、それまでは専業主婦でした。市原市で毎日家を訪問して拡大に専念。理事長の後市民ネットワークの誕生で市原市議に。苦しかったけれど、何とすばらしい人生を送ることができたのかと思います。こども食堂で、生活クラブの組合員に出会い、生活クラブ運動の精神は確実に受け継がれていると思いました」。

新保さんは、「1988年加入。40年のうち30年、いろいろな役割をしてきました。2002年25周年の大運動会や2003年の秋市は思い出深く、思い出おせば何でもできちゃうんだなと思いました。今、生協は公益組織として社会から期待されています。生活クラブのスピリットで常に考え継続して

いけば、果たせるのではないかと思います」。

加入40年の組合員72人のなかから、創設時からの共同購入の継続と生活クラブ運動を



県内に広げる礎としての多大な貢献に対して功労を称え、中澤洋子さん（上写真右）と八鍬雅子さん（左）に感謝状と花束が贈られました。

「子ども3人を育てている時は、多くの消費材のお世話になりました。今は夫婦2人なので利用も減りましたが、変わらずにつくり続けてくださる生産者や配達してくれることに感謝しています」と中澤さん。八鍬さんは、「美しい手賀沼を愛する市民の連合会の会長をしています。会の企画の際には放射線量も測定しています。これからも環境問題について活動を続けていこうと思います」。

生活クラブ千葉の創設者、北角虎男さんは90歳。生活クラブまたに関わった経緯や自宅の机1台・職員3人から生活クラブ千葉が始まり、市議・県議を務めたことなどを話し、「議員になったことで、池田徹さんと呼ばれ次へ繋げよう



と思いました。…生活クラブの良さは、皆さんが良く知っていることと思います」と締めくくりました。

・・・ 祝賀パーティ ・・・

生活クラブ千葉グループ協議会が10周年を迎え、虹の街の40周年と共に祝いました。

元理事長・現社会福祉法人生活クラブ理事長の池田徹さんは、「千葉は、2000年風の村、2002年新型特養な



歴代の理事長と北角さんによる鏡開き。左から、上符さん、木村さん、北角さん、池田さん、新保さん、牧野さん、3代目理事長の寺岡郁さん。

どさまざまな社会モデルをつくってききました。ちばのWAやちばこどもおうえんだんも生活クラブ千葉グループ9団体の枠を越えて必要なものとして当事者目線で私たちがつくったのです。よくぞここまで来たもんだと思います。これからも一緒にさまざまなことに取り組んでいきたい」と挨拶。

生活クラブ千葉グループの7団体の代表者の挨拶に次いで、40周年を迎



親生会の皆さん

えた生産者で結成された親生会の皆さんからは消費材や会をアピール。

スライド上映では、虹色セレモニーを理事の田中寛子さん・梨ノ木利枝さん、虹いろフェスタを理事の畔上久美さん・亙麻美さんが当日のようすを説明しました。また、40周年にちなんだテーブル対抗クイズ大会では、40周年記念消費材が5位まで賞品として贈られ、会場が盛り上がりました。



最後に、片桐浩章専務理事が「これからの10年に向けてがんばりましょう！」と三本締めで終了しました。

生活クラブ 40周年記念企画

2016年11月12日(土)
11:00~15:00
幕張メッセ 国際展示場8ホール

総来場者数 4,074人
組合員 2,066人
組合員以外の方 782人
新しく組合員になった方 47人
ステージ出演 319人
生産者 212人
ボランティア 228人

虹いろフェスタ



Foodエリア



ビオサボLABO・おもしろ野菜クラブ活動紹介・下村企販(株)・新橋製紙(株)・マスコー製紙(株)・(株)トライフ



Careエリア

共済相談・加入受付・エコロ制度紹介・おたすけ隊紹介・たまごパンではぐみちゃんを作っちゃおう・くらしと家計の相談室・生活クラブ風の村(社会福祉法人生活クラブ)・(NPO)VAICコミュニティケア研究所・(NPO)ワーカーズコレクティブ千葉県連合会・(NPO)ちば市民活動・市民事業サポートクラブ・(NPO)はぐみのだを支える会・(NPO)ユニバーサル就労ネットワークちば・(NPO)ちばこどもおうえんだん・フードバンクちば



Energyエリア



自然エネルギー・グリーンシステム・NON-GMO・一般社団法人グリーンファンド秋田・エスケー石炭(株)・NPO せっけんの街・エコ住宅コーナー

虹いろフェスタ

Aステージ



下総栄太鼓・木村理事長挨拶・
コーすけとじゃんけん大会・親
生会 40周年おめでとう・ミニ
コンサート(高橋施設長)・おや
じダンサーズ・エンディング



復興支援エリア



重茂漁業協同組合・(株)丸寿阿部商店・(株)高橋徳治商店・
公益財団法人共生地域創造財団



コミュニティエリア

集まれコミュニティ・コミュニティブース・プロク
ク子ども企画報告コーナー

くみひも空夢組・はんどめいどの会・ママcafe・ハッ
ピークローバー・ラ・ポーム・ビューティーセラピー・
水とせっけんの会・レッツハンドメイド・自主保育ま
つぼくり・あみあみ・はじめてアロマ・アロマ&ハー
ブ・編み物サークルたんぽぽ・HappyNatural・ポー
セラーツクラブ・成田おむすびプレーパーク・もぐ
もぐ&ワンポイント・happy growth～親育ち子育て
～・アルバム・カードの会・パステルアートセラピー・
足がる隊・CRAFT★BOX・豆の菜園・わくわく科
学クラブ・おひさまかあさん



cafe エリア



ヘルス & ビューティエリア



ハイム化粧品(株)・(株)ジャパン
ビューティープロダクツ・骨
密度測定

ワーコレ食堂 (W.Co 食の事業所)・ミニデポー・40周年記念消
費材・生活クラブ風の村とんぼ舎さくら・スワンベーカーリー柏店

虹いろフェスタ



試食エリア

庄内みどり農業協同組合・北海道チクレン農業協同組合連合会・栃木開拓農業協同組合・(株)平田牧場・(株)平牧工房・(有)月山パイロットファーム・みつし昆布(株)・ぐるめ食品(株)・合資会社杉勇蔵岡酒造場・(株)秋川牧園・(株)オーエスケー・(株)スリーエイト・農業生産法人(有)王隠堂農園・長野森林組合・農事組合法人紀州果宝園・(株)おびなた・長崎県漁業協同組合連合会・(有)奥和・みえぎよれん販売(株)・伏見蒲鉾(株)・こめや食品(株)・美勢商事(株)・(株)青い海・相生ユニビオ(株)・(株)マルモ青木味噌醤油醸造場・コーミ(株)・(株)新生わたらい茶・(株)日本果実工業・(株)丸きんまんじゅう・全農チキンフーズ(株)・(株)プレス・オールターナティブ第3世界ショップ・千葉県漁業協同組合連合会・(株)泰山食品商行・(有)マルヨーのり製造所・(株)第一物産・菊池食品工業株・全国農協食品(株)・(株)ニッコー・マルハニチロ(株)・米澤製油(株)・(有)小野田製油所・(株)ヴィボン・月島食品工業(株)・和光スパイス(株)・(株)味輝・共生食品(株)・日東富士製粉(株)・(株)ニューオークボ・藤原食品(株)・日東珈琲(株)・新生酪農(株)・(株)紅葉堂・(有)小島米菓・東京カレント・二葉製菓(株)・(株)ミサワ食品・平塚製菓(株)・タイヘイ(株)・私市醸造(株)



ショッピングエリア

NPO 法人地球市民交流基金 EARTHIAN・東京真珠・クロケッツ・アフロディーテ・(NPO) JFSA



Bステージ



劇団人の森ケチャップ・anges qui dance・プリリアントスターズ・ナッツ&チャイルドジャズダンス・Halau Hura Kainai Kiliphe・NPO いちかわ市民文化ネットワーク

子どもエリア

はらっぱ・配達トラックと撮影コーナー・(株)創土社・酒井産業(株)・こねこねせっけん・おもちゃのかえっこパザール



販売エリア 東薫酒造(株)・韓国食品(株)

お友だちエリア

生活クラブ生活協同組合(茨城)・韓国京畿南部ドゥレ生協・生活クラブ親生会



ありがとう！40年 未来へつなげよう 虹いろセレモニー

10月2日、流山市おおたかの森センターのホールにて、加入40年の方

を表彰する会を開催しました。40年間共同購入を続けてこられた

者の北角虎男さんと創立時の職員であり後に理事長、現在は生活クラブ風の村理事長の池田徹さんを迎え、当時の貴重な話を伺いました。加入40年の方一人ずつの思い出や近況からは「とにかく楽しい思い出ばかり…」。



柏ブロックから、我孫子市で活動しているB-chordsの歌とデポー大津ヶ丘の組合員有志によるフラグダンスのプレゼント。口ずさんだり、踊ったり

うち18人が参加。木村理事長がテーブルをまわり、一人ひとりに感謝状が贈られました。

来賓に、創設



柏ブロック運営委員会とスワンペーカー柏店がこの日のために開発したパンも贈呈

40周年記念消費材

40周年を記念し、組合員が消費材の開発に取り組みました。ブロックごとにアイディアを出しあって誕生したのは、食品や衣料品など個性豊かな17品目！千葉県にゆかりのある生産者や関連団体と協力して、虹の街ならではの逸品が完成しました。

柏ブロック

生産者 / (株) ニューオークホ (柏市)・日東珈琲 (株) (工場：山武市)・スワンペーカー柏店 (柏市)

柏ばすた タリアテレ 柏ばすた カッペリーニ



40周年虹ブレンド 風薫 Fukaと大地 Daichi



みんな大好き！ ガッタイロールパン



千葉ブロック

生産者 / 千葉県漁連・関連団体 / JFSA (千葉市)

栄養満点！イワシのばくばくつまれ



栄養満点！イワシの大満足つまれ



いつでもストール from パキスタン



どこでもロールペーパー ケース from パキスタン



松戸ブロック

生産者 / 私市醸造 (株) (鎌ヶ谷市)・タイヘイ (株) (工場：匝瑳市)

しょうがぼん酢



マづくり 醤油キット

市原ブロック

生産者 / (有) マルヨーのり製造所 (富津市)

南総育ちのひじきのり豆入り



まいのり



佐倉ブロック

生産者 / 韓国食品 (株) (匝瑳市)・関連団体 / とんぼ舎 (佐倉市)

すっばくないピクルス



とっまおき小松菜キムチ



さくらプレミアムクッキー (プレーン・こま・ココア)



ベイブロック

生産者 / 新生酪農 (株) (長生郡睦沢町)

かほちやアイス



ブロック活動ファイル

* QRコードで各ブロックの Facebook へ！



柏ブロック

虹いろフェスタ開催までブロックの広報として関わってきて、特に印象深かったものを紹介します。

子ども企画のエコ貼り絵では、Rびんのラベルを使って貼り絵づくり！なかなか集まらなかったRびんラベルも、デポーの回収箱に、ごそっと入っていてホッとしたことも！

お子さんがニコニコして「これはジュースのラベルだね」と会話しながら貼り絵を楽しんでるようす。家でもラベルをきれいにはがせるようになった

虹いろフェスタを終えて

ていく！そんなからくりって素晴らしい！と感じました。

虹フェス参加人数カウントダウンシール貼り(写真)では、参加予約者が増えるごとに、組合員、員外と色分して貼り、Facebookでもお知らせしながら、他のブロックと競い合い、完成時には達成感でいっぱいでした。

活発なコミュニティは、柏ブロックにとって、人と人を繋ぎ、仲間や居場所づくり！に繋がる自慢の宝物です！虹いろフェスタでは、ワークショップ



やパネル紹介などで参加してくれました。このパネルは、たくさんの方に見て知ってもらいたいと、センターに貼り出しています(写真上)。

虹いろフェスタを振り返ってみて、たくさんの繋がりが生活クラブを支えていると改めて実感しました。

2016 11.12

理事 梨ノ木利枝



松戸ブロック

今年度は、40周年記念消費材開発と、開発にかかわった生産者との交流会、子どもイベントの夏まつりなどたくさんのイベントがありました。そのなかで一番印象に残っていることをあげるとしたら、おおぜいの組合員の皆さんと一緒に取り組んだ虹いろフェスタでしょうか。生活クラブをずっと支えてきたベテランの方から、小さなお子さんがいる若いママさん、ご家族の方まで…。本当にたくさんの方々にご協力いただき、今後の活動に向けてと

40周年行事を振り返って

ても心強く感じたのを覚えています。

また、虹いろフェスタでは嬉しい出会いもありました。ボランティアで生産者ブースに入った方から「ぜひもっと詳しい話を聞きたい」「消費材のおいしさをお友だちにも伝えたい」と、そのブースの生産者との交流会を開催することになり、この交流会がまたどのような出会いに繋がるのかとても楽しみです。

3月には、主にベテランの組合員さんをご招待して「同窓会～40周年を

振り返る会～」も計画しています。生活クラブの活動の経験を語っていただき、それを今後の私たちの活動に生かしていきたいとの思いからです。

40周年を節目として今までを振り返り、今後の活動に繋げる…。今年度は松戸ブロックにとっても、とても実りの多い1年となりました。

理事 鈴木奈緒子



ベイブロック

40周年記念消費材としては少し出遅れましたが、ベイブロックと新生酪農(株)(岩瀬寛さん)と一緒に開発した、誰からも愛される新しい味のアイスが誕生しました。生活クラブらしい余計なものはいれない、牛乳、乳製品、砂糖とかぼちゃのみのシンプルでほっこりな味わい。今までなかったのが不思議なくらいです。

記念消費材開発当初、千葉名産のピーナッツ・野菜やフルーツ、調味料、豆乳、甘酒、蜂蜜など20種類以上の

かぼちゃアイス誕生！

フレーバーアイスを提案し、アレルギの有無に関わらず安心して食べられるものをめざして検討を重ねました。決定後も原材料のかぼちゃにペーストを使用すると、収穫の年により味にばらつきが出るためパウダーに変更し、その配合や香料の有無まで、何度も試作と試食を繰り返しました。おおよそ開発の目途が経った矢先に、保管をする冷凍庫の問題が発生。記念消費材を一から考え直す案まで出ましたが、多くの方々の知恵と協力をいただき、納

得できるアイスを生み出すことができました。私も消費材の開発に初めて携わることができ、多くのことを学ぶよい機会を得ました。

生活クラブのアイスはアイス業界で「スーパープレミアムアイス」と言われ、さらに安全な原材料なのに低価格。皆さんもこの機会にぜひ味の違いを確かめてみてくださいね。

運営委員 下江稚恵



ブロック活動ファイル



千葉ブロック

2016年度はなんといってもデポー真砂のリニューアル！9月2日のOPENに向け、みんなで走り抜けました。リニューアルイベント3日間で加入100件を超えるレジェンドを生み出したのは、私たちの誇りです。

そして、2015年度から活動をスタートした記念消費材開発。千葉県漁連と一緒に開発した「イワシの大満足つみれ」は記念消費材売上No.1！「イワシのパクパクつみれ」も最終取り組みで欠品となる人気っぷり。みなさん、

40周年 Year @千葉ブロック

食べましたか？JFSAと開発した「ストール」「ロールペーパーケース」は、千葉ブロック・JFSA・パキスタン（アル・カイルアカデミー）の繋がりが発展して、生活クラブ連合会や生活クラブ愛知の組合員も巻き込む大きな輪が生まれました。子ども企画も、この2団体に協力いただき、8月2日のJFSAの「古着選別体験会」と作業後に食べたパキスタンカレー！千葉県漁連は、デポー真砂リニューアルオープンイベントと合わせて9月3日に「イ

ワシのつみれ作り」で新鮮なイワシでつみれをつくり堪能！どちらも子どもがキラキラ楽しそうに輝いていました。11月12日、虹いろフェスタは、たくさんのボランティアやコミュニティの協力で大イベントを成し遂げられました。皆さん、ありがとうございました。運営委員長 畔上久美



佐倉ブロック

今年度の活動は、虹の街40周年記念に合わせた活動・企画を多く開催しました。ブロックとなじみの深い生産者とコラボした消費材開発は、生活クラブ風の村とんぼ舎さくらと「さくらプレミアムクッキー」・「すっぱくないピクルス」。原料を話し合うところからスタートしました。「とっておき小松菜キムチ」は韓国食品（株）と開発しました。匝瑳市にある工場をメンバーで訪ね、生産者の姿勢やこだわりなども知ることができました。話し合いを

いろいろな方と出会えた40周年！

経た幾度とない試作、試食&センター内投票、包材まで考えてできあがった消費材にはとても愛着がわいています。さらに、生産者をより深く知るきっかけにもなり、相互理解もすすみました。もう一つ、佐倉ブロックの大きな企画は7月28日の「自然と遊ぼう！作ろう！食べよう！」です。生活クラブ風の村特養ホーム八街 隣の風の杜ひろばでの親子屋外イベントに大人31人、子ども46人が参加。互いの交流も生まれ、自然を満喫できました。

生産者交流会をコミュニティ、フォーラム主催でも多く開催。参加者した組合員は、ベテランさんから新人さんまでいろいろです。さまざまな活動を通じて、多くの方が繋がりを、生活クラブの良さを共感したことをこれからも広めていきたいと思っています。



運営委員長 紅谷秋恵



市原ブロック

ブロックの40周年記念活動は、「まいのり」「南房育ちのひじきのり」の消費材開発と「子ども企画・(株)黒姫和漢薬研究所見学会」を行いました。

記念消費材の開発では、富津市の(有)マルヨーのり製造所に食のフォーラムメンバーが伺い、千葉県が誇る富津の海苔と君津の在来種の大豆（小糸在来）、千倉のひじきを使った南房総のおいしさがギュッとつまった佃煮を試食。そのおいしさに一同「これだ！」と大絶賛し、記念消費材に決定！ネー

40周年記念活動

ミングを「南房育ちのひじきのり」とし、ラベルのデザインもメンバーで考えました。さらに、工場で、埼玉単協や地元の学校給食で出されている小容量ののり佃煮を発見し、「これも！」とお願い。中身は従来の消費材で、お弁当に便利な7gに。my箸のように携帯できる「まいのり」と命名しました。どちらも愛おしい消費材です。

夏休みには子ども企画として、長野県上水内郡信濃町にある(株)黒姫和漢薬研究所を見学しました。組合員家

族30人（子ども17人）で黒姫高原を散策。消費材の黒姫山草茶の原料となる野草がどのように生息しているのか勉強し、工場見学、自分だけのオリジナル茶のブレンド体験など、長野の自然を満喫し、その恵みをいただく貴重な時間となりました。

運営委員長 並木道代





生活クラブ千葉グループは、県内の生活クラブ関連9団体の総合力で地域社会をより住みよく暮らしやすくするために社会問題の解決とコミュニティの再生に寄与します。



特定非営利活動法人せっけんの街

理事長 須田恭子

せっけん運動から街づくり運動へ

かつて手賀沼は水遊びのできる美しい沼でしたが、合成洗剤に含まれるリンによる富栄養化でアオコが発生し異臭を放っていました。全国一汚いと言われる「手賀沼を守ろう」を合言葉に生協、漁協、労働組合、自然保護団体などが参加し「合成洗剤を止めてせっけんの利用を推進するための条例制定」の直接請求運動が広がります。

また生活雑排水と共に流されていた廃食油から環境負荷の少ない良質なせっけんができることを知り、市民出資によるリサイクルせっけん工場の建設運動へと繋がり、「手賀沼せっけん工場」、10年後に「印旛沼せっけん工場」が誕生。生産現場で障がい者と共に働く職場ができました。このせっけんは、おおぜいの想いをもって「せっけんの街」と名付けられ、やがて組織の名称となります。

1985年の生活クラブ虹の街の総代会では「せっけんの街」基本理念が示され、99年リサイクル事業と街づくり運動を2つの柱にするNPOせっけんの街を設立し新たなスタートを切りました。

廃食油回収は、生活スタイルの変化により家庭より学校給食などの事業所系が増えましたが、虹の街の組合員と共に「あんしん」や「こはく」を開発、より使いやすいせっけんの利用を呼びかけています。健全な水循環を取り戻そうと雨水タンクの販売も始めました。また次世代を担う子どもたちに向けた環境学習や生活クラブの講座メニュー

「コミュニケーションひろば」への登録、地域では消費生活展などさまざまな場でアピールしています。

工場見学者の受け入れ増や地域に開かれたオープンスペースの創設でせっけんや雑貨の販売をする計画です。NPOせっけんの街は、常に虹の街の組合員の活動とそれを支える人々と共にありました。これからも次世代に豊かな環境、住みよい街をつくるため共に活動をして行きたいと思えます。



特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブ 千葉県連合会 理事長 北田恵子

生活クラブの街づくり仕事づくり

ワーカーズ・コレクティブ(以下W.Co)は、生活と自治の延長線上に「非営利」「市民事業」において組合員や地域が必要とするものを創り出してきました。県内で最初のW.Coは、1984年、真砂デポの請負事業所「かい」(後のみき樹)で、その後もインキュベーターとなって幸町やみつわ台でデポが開かれ、ハーブや菜の花などの惣菜事業所が興されました。また、生協の環境保全運動(せっけん運動、リサイクル運動)から回転木馬や紙ふうせんなど、配送+ケアが方針となると福祉ワーカーあいが立ち上がるなど、生協の運動や方針に応じて生み出されてきました。

W.Coは、モノやサービスを使う側からつくる側へと転換させ、「雇う一雇われる」の関係ではなく自分達の働く場を自分達の手で働きやすい場にする自発的な労働参加、「オルタナティブな働き方」で女性の経済的自立と社会参加

を可能にしました。また地域資源をネットワークで結び地域に根ざした協同労働、コミュニティワークという就労スタイルで食の安全や環境・福祉の課題と向き合ってきました。まさに生活クラブがめざした生活者の暮らしを守る街づくりの実践、生活と自治そのものです。その流れは、今もFEC自給圏+Wに引き継がれ、配送、葬祭やエコロなどの生協受託事業が増えるなかで「地域の必要」を拾って「地域で働く」参加型組織W.Coの出番もますます広がっています。

多くの宿題を抱え転換期にあるW.Coですが、これからも10年・20年先の必要を描きながら生活クラブ虹の街や生活クラブ千葉グループと共に街づくりと仕事づくりに努めて参ります。



特定非営利活動法人地球市民交流基金 EARTHIAN 代表理事 中村由美子

地球市民として活動する

1991年の湾岸戦争による被災市民への支援カンパ(生活クラブ生協千葉)をきっかけに準備活動が始まりました。

組合員を中心に集められた支援金を、どうしたらよいのか。また、その支援金がどのように使われたかを、直接目にすることはできませんでした。

この活動のなかから単なる支援ではなく、悲惨な戦争や貧困をなくすために、国や文化、宗教などさまざまな違いを越え、人と人が出会い、違いを認め理解を深めることが必要と考え、設立のきっかけとなりました。

生活クラブ生協の91年度第12回理

生活クラブ千葉グループ代表者メッセージ

事会にて、生活クラブ生協、代理人ネットワーク・千葉県、ワーカーズ・コレクティブ千葉県連合の三者を母体として「地球市民交流基金」設立準備委員会を結成し、93年3月に任意団体として設立しました。

設立後、活動を続けていくなかで、95年、パキスタンカラチ市のスラム地区で義務教育さえ受けられない子どもたちのための学校アル・カイールアカデミー (AKA) の校長ムザヒル氏と出会いました。AKAは、87年ムザヒル校長が友人たちの協力を得て始めた無償の学校です。校長の考えに賛同し、職業訓練所の建設資金を支援し、2001年にオープン。引き続き運営費を支援しています。

現在、交流支援事業と販売事業を主軸として活動しています。交流支援は、会費で運営され、AKAの職業訓練所支援と、他団体と協同・連携ですすめる活動として日本国際ボランティアセンターを通じてラオスのサワナケート県で行われている事業を支援しています。

販売事業は、アーシアンショップ柏とアーシアンちばで行い、フェアトレードを広め活動を伝えています。

ブ(通称を生活クラブ風の村とし、「虹の街」と「風の村」が対であることを表現しています)を設立しました。

私たちは、特養をつくるにあたって「自分が住みたいと思える施設をつくる」ことをめざしました。「自分が食べたいものを自ら開発する」生活クラブとしてごくあたり前に出てきたキャッチフレーズです。しかし、後々、福祉の世界ではそれがあたり前ではなかったことに気がつきます。「福祉」は、「かわいそうな人にほどこしてあげる」という考え方に基づいていて、施設をつくる人はそこに自分が暮らすとは思っていないのです。だから、トイレがカーテンの仕切りで男女共用だったり、カーテンを開けたままでおむつ交換をしていたり、見学した施設で目をおおうような光景に出くわしました。

特養風の村は、福祉のしろうとである組合員のみなさんが「自分が住みたいと思える施設」というコンセプトだけをよりどころに考えて、つくったのですが、できあがると、全国からおおぜいの人が視察に訪れ、その後の特養のモデルになりました。しろうとだからできたのだと思います。

以後、高齢者介護からだんだん事業分野を広げてきましたが、一貫して「自分が利用したいと思えるケア」の質を大切にしてきました。特養風の村をつくる時、「たった50人しか入居できず、組合員が優先して入れるわけでもないものにお金をかけていいのか」という疑問が多くの人から出されました。それに対して「私たちがつくるのは定員50人という小さなものだが、それが素晴らしいものなら、風の村をモデルにした施設が全国にできていくはずで」と答えました。そして本当に実現しました。それは、生活クラブの消費材の品質が食品市場のあり方を変革する力になってきたことと同じです。生活クラブ風の村は、これからも「福祉の消費材」づくりに取り組んでいきます。



特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 代表理事 牧野昌子

市民主体のまちづくりへ

1996年に市民が学びあう場「市民スクール」を開設、「田んぼの学校」「森林の学校」「畑の学校」等講座事業を始め、講座から発展、継続している団体はNPO法人ウィメンズカウンセリングちば、特養風の村で園芸ボランティアの「たんぼぼクラブ」、周辺竹林整備・竹炭焼きの「たけのこクラブ」です。

その後、講座から発展した団体を含め、市民活動やボランティアグループを支援するためにNPOクラブを設立しました。また、98年12月に特定非営利活動促進法が施行され、各団体が次々に法人化した時期でもありました。

この法律は議員立法で法制化、市民の主体性に重きが置かれ行政はなるべく管理監督しないことが特徴です。またこの法律をつくった議員の一人が堂本暁子さんであり、その後、千葉県知事を2期務められ、さまざまな施策づくりに県内各地でタウンミーティングが開催され、多くの市民・NPOメンバーが参加し議論しました。NPOクラブも県行政の施策に積極的に関わり県との協働事業に取り組みました。NPOのマネジメント講座企画運営事業を受託し、県内各地で活躍する意欲的な方々と出会い、その後のNPO支援事業に広がってきました。そして、県・市町の市民参加・協働の施策づくりや補助金審査等に関わり、NPOのもうひとつの役割でもあるアドボカシー活動を継続しています。

また、設立当初から生活クラブ生協の剰余金2%と市民からの寄付を原資に「一歩くん基金」を運営、9回の助成を実施しました(67団体に総額1,714万



社会福祉法人生活クラブ 理事長 池田 徹

自分が利用したいケア
「福祉の消費材」をつくる

生活クラブ生協・千葉(以下「虹の街」)では、1994年から「たすけあいネットワーク事業」と名づけた介護事業を始めましたが、5年間の準備期間をへて、2000年に特別養護老人ホーム「風の村」を完成しました。特養を運営するには社会福祉法人という法人格が必要です。そのため98年に社会福祉法人生活ク

円)。この基金をさらに発展させるために、県内初のコミュニティ財団ちばのWA地域づくり基金を設立しました。13年に公益財団法人認定され、今日まで寄付総額3,059万円(17年1月現在)を成果が見える事業に助成しています。10年後の地域社会を考えると行政のみならず市民・NPO・事業者などさまざまな人々が連携して地域課題解決に取り組まなければ安心して暮らすことなどできないことは明らかです。その解決活動に必要な資源(人、もの、資金、情報)を地域で持ち寄り、循環させることが求められ、市民主体のまちづくりの基本に繋がることと考えています。



特定非営利活動法人 VAIC コミュニティケア
研究所 理事長 佐々部憲子

互助活動と担い手を地域に創り出す

超高齢社会の到来を見据え1994年「食の不安と老いの不安に答える生協」をめざしてたすけあいネットワーク事業が始まりました。VAIC-CCIはこの時期に誕生した2つの団体が2008年に統合合併し設立された団体です。

VAICは風の村が運営する高齢者福祉施設(八街市)の支援団体を前身とします。それが04年にボランティア相談やボランティアコーディネートを通して組合員と風の村を、地域住民のたすけあいのコーディネートと制度外サービスの創出を目的に発展改組されました。一方、CCI(コミュニティケア研究所)は02年に生活クラブ虹の街や生活クラブ千葉グループのシンクタンクの位置づけで設立。翌年にはNPO法人化し地域福祉推進に関する研究や研修などを行い地域福祉活動をする団体を支援する組織となりました。以降

それぞれに実績を積み重ねていきましたが、双方とも組合員活動との連携や交流が弱いことが課題でした。また、相談事業や権利擁護活動など共通するテーマもあり、両者で検討し合併することになりました。統合の意義として「相談・生活支援・権利擁護・サービス評価」を一元的に行う組織として事業展開することでさまざまな支援ニーズの掘り起こし、生活課題の早期発見ができ、必要な支援に繋ぐことができる。地域コミュニティが形骸化しつつあるなかで重要な機能として、地域に身近で気軽に立ち寄れる相談窓口の必要性や虹の街との協働事業として組合員の新たな活動のステージの提供など考えました。今日では集団託児ケアシステム「風船」や「くらしと家計の相談室」、千葉市生活困窮者自立支援制度による家計相談支援事業と事業連携や交流が広がっています。

今後は、地域づくりをすすめるうえで重要な担い手の養成を協働で取り組んでいきたいと思えます。そして地域ニーズに合った互助活動を多様に創出していきましょう。



特定非営利活動法人 ユニバーサル就労ネット
ワークちば 副理事長 平田智子

みんなで作ったユニバーサル就労

ユニバーサル就労(以下UW)は、2006年私たち生活クラブ千葉グループ協議会の部会「社会的企業研究会ちば」が第1の出発点です。生活クラブ千葉グループは、社会問題解決を目的とする社会的企業でありたいという思いでこの部会が始まり、当時私は風の村の新人職員として、千葉グループやこの部会の事務局を担当していました。同

じ頃、風の村と(株)生活科学運営の連携で、市川で高齢者住宅事業を準備していましたが、その準備会のなかで、地域特性やニーズにあった連携としてUWマッチングワークショップを開催しました。その時に初めてユニバーサル就労(UW)という言葉でさまざまな働きづらい人の就労支援の活動が始まり、これが第2の出発点です。

08年から生活クラブ虹の街、生活科学運営、生活クラブ千葉グループ団体や外部の就労支援団体と共に、UWシステムづくりが開始され、今のシステムの土台となります。中間支援組織がUWの社会化を図るという構想がUWネットワークちばの設立へ繋がります。現在、NPO法人UWネットワークちばは、千葉市、松戸市、浦安市から就労支援やひきこもり支援の事業を受託し、さまざまな理由で働きづらい人の就労支援や社会に出る一歩の支援をしながら、UWの理念がさらに広がることをめざし活動しています。

生活クラブの活動から始まり、制度のモデルの1つになったUWは、これからが正念場です。サステイナブルな社会づくりのキーワードのひとつが、UWとなるように、私たちは相談者に向き合い伴走し、ユニバーサルな地域社会づくりをめざします。



特定非営利活動法人はぐくみの杜を支える会
理事長 竹内悦子

すべての子どもの笑顔のために

2016年3月28日に第2回目のかけはしの会が小糸公民館で開催されました。児童養護施設(社福)生活クラブ風の村はぐくみの杜君津が主催し、地域の方やボランティアを招待し、子ど

生活クラブ千葉グループ& JFSA 代表者メッセージ

も・職員全員が参加して、発表やゲームなどで楽しむ手づくりの会です。子どもたちの発表に泣いたり笑ったりのひとつときを過ごしました。

虐待等で傷ついてはぐくみの杜で暮らし始めた40人の子どもたち。「尊ばれ・癒され・育まれる」の基本理念を大切に生活するなかで、安心と安全を獲得できたのかなと実感しました。

はぐくみの杜を支える会（以下、支える会）は13年4月に生活クラブ虹の街の組合員を中心に設立しました。その後9月に2人の子どもが入所して、はぐくみの杜はスタートしました。支援をどのようにすすめるか手探りでの活動が始まりました。まずはボランティアの養成講座を2年間行い、終了後に登録したボランティア16人が食事づくり、遊び、環境整備、畑のチームで活動を開始。月に2回の夕食づくり、夏休みの昼食づくりはスタッフへの大きな支援になりました。

支える会は、はぐくみの杜で暮らす子どもたちが、豊かな経験を積み重ね、社会に巣立つための支援をするための会です。昨年からは、家庭で暮らせない15歳から20歳の若者が暮らす生活クラブ風の村自立援助ホーム人力舎君津への支援も始めました。今年度は進学を希望する高校3年生への自立支援が始まりました。一人ひとりの希望に沿った支援を施設と相談しながらすすめます。社会への巣立ち、アフターケアが継続できるよう取り組んでいきます。

*以上の原稿は、40周年記念誌『40年のものがたり』の生活クラブ千葉グループ代表者メッセージに寄稿いただいたものから抜粋しました。詳細は、『40年のものがたり』をご覧ください。創立順に掲載しています。



特定非営利活動法人日本ファイバーリサイクル
連帯協議会 理事長 依知川 守

古着のゆくえを追いかけて・・・

JFSAは、1995年10月に生活クラブ生協・千葉（虹の街）やアーシアン、ユーズリサイクルセンターなどいくつかのグループが協力して「豊かな暮らしを支える世界の貧しさを考える」をテーマに設立されました。1998年に千葉市、2010年には柏市に古着ショップを併設したJFSA海外衣料支援センターを開設、活動の拠点となっています。

JFSAは、パキスタン現地の人々と協力して古着等のリユース販売事業を行い、1年に4回約100トン現地を輸出し、販売した収益をカラチ市のスラム地域の学校「アル・カイルアカデミー」の運営支援に使っています。

生活クラブ虹の街はデポー、および配達便で回収を実施。これまでに述べ33,000人（186トン以上）の組合員の皆さんに参加していただいています。デポーでは、定期的に国内リユース事業にも協力いただいています。

また、この度は生活クラブ虹の街40周年記念消費材として、ストール、ロールペーパーケースをアル・カイル事業グループの縫製工房にオーダーしていただき、ありがとうございました。

アル・カイルアカデミーとの出会いから20年以上。学校は第7分校まで広がり、現在は幼稚園クラスからカレッジまで、約3,500人の生徒が通っています。学校では多くの卒業生が先生として働き、第7分校の分校長サイマさんは02年開校の第2分校の第1期卒業生です。このような現地の教育活動を、皆さんから寄せられた古着などの販売事業が継続的に支えています。これからもどうぞよろしく願いいたします。

せっけんの街

【本部】 柏市小青田 29-2
tel : 04-7134-0463 fax : 04-7134-7468
http://www.sekkennomachi.org
e-mail: info@sekkennomachi.org

W.Co 千葉県連合会

【住所】 柏市十余二 380-97
tel & fax : 04-7134-0072
http://www.ac.auone-net.jp/~r11/wco.
e-mail: wcochiba@s2.dion.ne.jp

アーシアン

【事業本部】 千葉市美浜区真砂 5-21-12 1F
開所 13:00 ~ 16:00 (水・土・日・祝休)
tel & fax : 043-279-8665
http://www.jca.apc.org/earthian
e-mail: earthian93@jca.apc.org

生活クラブ風の村

【事業本部】 佐倉市王子台 1-28-8
ちばぎん白井ビル4階
tel : 043-309-5811 fax : 043-460-8844
http://www.kazenomura.jp/
e-mail: info@kazenomura.jp

NPO クラブ

【住所】 千葉市美浜区真砂 5-21-12
tel : 043-303-1688 fax : 043-303-1689
http://npoclub.com/
e-mail: npo-club@par.odn.ne.jp

VAIC-CCI

【事業本部】 千葉市稲毛区園生町 1107-7
tel : 043-290-8015 fax : 043-290-8016
http://www.vaic-cci.jp/
e-mail: info@vaic-cci.jp

UWN ちば

【住所】 千葉市中央区中央 3-9-9
エレル千葉中央 304
tel : 043-306-2564 fax : 043-306-2574
http://www.facebook.com/uwnchiba
e-mail: info@uwnchiba.net

はぐくみの杜を支える会

【住所】 君津市糠田 64 番地
tel & fax : 0439-32-2270
http://hagukuminomoriwosasaerukai.
jimdo.com/
e-mail: hagukumi-sasaerukai@aroma.
ocn.ne.jp

JFSA

【事務局】 千葉市中央区都町 3-14-10
tel & fax : 043-234-1206
(9:00 ~ 19:30 木曜定休)
http://www.jfsa.jpn.org/
e-mail: jfsa@f3.dion.ne.jp

虹の街ヒストリー

西暦	生活クラブ千葉とグループのあゆみ	世の中のできごと	西暦	生活クラブ千葉とグループのあゆみ	世の中のできごと
2017	40周年記念式典(東京ベイ幕張ホール)		2000	千葉県八街市に特別養護老人ホーム風の村(現生活クラブ風の村特養ホーム八街)開設	介護保険制度施行
2016	40周年記念イベント 虹いろフェスタ開催(幕張メッセ)	熊本地震		ちば市民活動・市民事業サポートクラブ設立	
	生活クラブ千葉グループ協議会9団体に電気の共同購入取り組み開始	電気小売業参入全面自由化	1999	手賀沼せっけん共有者の会が「せっけんの街」にNPO法人化・名称変更	東海村核燃料工場で臨海事故
2015	オールちば旬菜まつり	TPP交渉大筋合意		ワーカーズコレクティブ千葉県連合会、NPO法人に(株)生活クラブアビリティーズ(後の生活サポートクラブ)設立	台湾大地震・トルコ西部地震発生
2014	くらしと家計の相談室開設			減ダイオキシン!塩ビラップ返品運動	
	ユニバーサル就労ネットワークちば、NPO法人格取得、生活クラブ千葉グループ連絡協議会11団体に。生活クラブ千葉グループ協議会に名称変更	特定秘密保護法施行	1998	たすけあい倶楽部を支える会設立	イラン・イラク戦争終結
生活クラブSOLAR市原発電所「そらみん」稼働		市民スクール設立		世界初クローン牛誕生	
2013	はぐくみの杜を支える会設立、生活クラブ千葉グループ連絡協議会10団体に	富士山、世界文化遺産に		社会福祉法人たすけあい倶楽部設立	長野冬季オリンピック
	児童養護施設はぐくみの杜君津建設、9月開設			旭市環境保全・循環型農業モデル事業(サンライズプラン)設立総会	
2012	ユニバーサル就労ネットワークちば設立	再生可能エネルギーの固定価格買取制度開始	1997	「千葉県高齢者生活協同組合」設立	東京湾アクアライン開通
	一般財団法人ちばのWA地域づくり基金設立(2013年~公益法人)			設立20周年記念行事「Happy Birthday 20歳の夢 収穫祭」開催	消費税5%に
2011	デポー園生オープン	東日本大震災、福島第一原発事故	1996	代理人千葉県ネットワーク、市民ネットワーク千葉県に名称変更	世界初クローン羊誕生
	生活クラブいなげビレッジ虹と風開設、生活クラブ風の村・生活クラブ虹の街呼称変更			設立20周年記念式典・パーティ	O157集団発生
2010	食の未来フォーラム開催	宮崎県で口蹄疫発生	1995	日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)設立	容器包装リサイクル法施行
	コルザ7月号 創刊300号			「われら人間:50のコミュニティ賞」受賞	阪神淡路大震災
2009	新託児ケアシステム「風船」事業化VAIC-CCIに委託	衆院選で民主党が勝利、政権交代へ裁判員制度開始		Iコープ取り組み6支部で開始	
	食の未来フォーラム生活クラブまつり開催		1994	たすけあいネットワーク事業開始(全国の生協初)	関西国際空港開港
2008	NPO法人VAICコミュニティケア研究所の誕生(CCIとVAICの合併、VAIC-CCI)生活クラブ千葉グループ連絡協議会9団体に	リーマンショック			生活クラブ生産者の会(後の元気クラブ)設立総会
	支部・ブロック再編:4ブロック(東葛・京葉・上総・下総)・34支部・4地区	CO・OP中国製餃子事故	1993	地球市民交流基金EARTHIAN設立	凶作で米不足
六ヶ所再処理工場に反対し放射能汚染を阻止するネットワーク(阻止ネット)運動をスタート	郵政民営化			「代理人ネットワーク・千葉県」設立	Jリーグ開幕
2007	いっぱい食べちゃうぞ!キャンペーン	新潟県中越沖	1992	環境測定活動(NO ₂)開始	
	生活クラブ千葉グループ連絡協議会設立(10団体)	耐震強度偽装事件(千葉)			「ワーカーズコレクティブ千葉県連合会」結成
2006	地球市民交流基金EARTHIANとVAIC、NPOに30周年記念企画キャンドルナイト開催	障害者自立支		チェルノブイリの子どものための千葉の夏休み	千葉市が政令指定都市に
	生活クラブ千葉グループ連絡協議会発足(5団体:虹の街、風の村、VAIC、CCI、生活サポートクラブ)	個人情報保護法施行	1991	「風の村」風のロッジオープニング祭	湾岸戦争勃発
第1回新生酪農ミルクまつり開催	愛知万博開幕			生活クラブ千葉15周年記念祭	
2005	生協のたすけあいネットワーク事業を分離・統合し、社会福祉法人生活クラブに名称変更	新潟県中越地震消費税込額表示価格開始	1990	「生活クラブ事業連合生活協同組合連合会」発足	東西ドイツ統一
	たすけあい倶楽部を支える会、生活クラブ・ボランティア活動情報センター(VAIC)に改組	カルタヘナ法施行			柏市に「ネットワーク館」オープン
2004	スワンペーカーリー柏店オープン	鳥インフルエンザ発生	1989	ライトライブリフッド・アワード受賞	消費税3%
	ブロック秋市開催				2万人突破記念シンポジウム開催
2003	CCI、生協の理事会において法人化決定にともないNPO法人格取得	カルタヘナ議定書発効	1988	牛乳殺菌温度変更(72℃15秒)	瀬戸大橋・青函トンネル開業
	「秋市」(大規模なギフト試食・生産者交流会)開催 4707人の組合員と62生産者が参加(幕張メッセ)	宮城県沖地震			「協同村建設委員会」発足
2002	新生酪農千葉工場びんライン稼働開始		1987	「ちば・せっけんの街会議」設立総会	JR発足
	生活クラブ生協・コミュニティケア研究所発足	サッカーW杯日韓共催			千葉県(野田市)に初めての代理人が誕生
2001	生活クラブ生協「ベイセンター」開設		1986	10周年記念式典	
	「シャボン玉フォーラム in ちば」開催	日本ハム・雪印食品の牛肉偽装事件		1985	「手賀沼せっけん工場」完成
	「ごんには!赤ちゃん♪せっけんプレゼント」開始				ワーカーズ・コレクティブが誕生
	生活クラブ千葉25周年記念行事「走れ!翔べ!真冬のファミリーフェスティバル」開催		1984	「手賀沼せっけん共有者の会」結成	
	ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、NPOにみんなでTRY!消費材開発				機関紙コルザ創刊
	生活クラブ千葉25周年式典	北海道に日本初の市民風車「はまかぜちゃん」設置	1983	生活クラブまつり12支部で開催	
	牛乳のびん化	国内でBSE初確認			「1万人突破組合員の集い」開催
			1982	協同組合石けん運動連絡会(協石連)設立	敦賀原発事故
				1981	「手賀沼を守ろう!合成洗剤追放市民会議」結成
			1980		日本の生協初の新生酪農(株)牛乳工場千葉に完成
				1979	生活クラブ連合本部発足
			1978		「生活クラブ親生会」発足
				1977	生活クラブ生協千葉設立 組合員1,003人
			1976		

虹の街の事業所紹介

センター柏

組合員数
5,247人

1977年完成の一番歴史のあるセンターで、柏市の工業団地に立地。全センター中、組合員数が最多で、加入暦40年以上のベテランさんは60人以上在籍しています。



配送エリア / 柏市(一部除く)・我孫子市・流山市・野田市

tel : 04-7134-3801 fax : 04-7134-3806
〒277-0872 柏市十倉二丁目下大塚 380-97

センター松戸

組合員数
3,006人

鎌ヶ谷と松戸の市境近くにあるセンター。エリアは狭く効率良く配達できます。3階は調理室を備えたホールがあり、組合員企画が活発に行われています。



配送エリア / 松戸市・市川市(大町)・鎌ヶ谷市・白井市(桜台除く)・船橋市(丸山・小室)・柏市(高南台・しいの木台・高柳・藤ヶ谷)

tel : 047-385-4646 fax : 047-330-6600
〒270-2214 松戸市松飛台 398-1

センターベイ

組合員数
3,742人

京葉道路市川ICのすぐそばにあり、2002年に建設されました。生活クラブ東京と建物をシェアしています。1階倉庫は、虹の街の物流拠点になっています。



配送エリア / 浦安市・船橋市(丸山・小室除く)・市川市(大町除く)

tel : 047-379-1540 fax : 047-393-6353
〒272-0014 市川市田尻 1-10-9

センター佐倉

組合員数
4,227人

閑静な住宅街にあるセンター。1階の喫茶「ハーブ」では、おいしいランチや珈琲も。年3回開催する生活クラブの「展示会」はいつも盛況です。



配送エリア / 佐倉市・四街道市・成田市・印西市・白井市(桜台)・八街市・富里市・酒々井町・栄町・旭市・匝瑳市・山武市・東金市・九十九里町・大網白里町(季美の森南)

tel : 043-461-7868 fax : 043-460-1380
〒285-0837 佐倉市王子台 6-3-9

センター市原

組合員数
3,911人

近隣は京葉工業地帯。房総半島の最南端まで、千葉県のおよそ半分の自然豊かな配送エリアです。屋根(左建物)には太陽光パネル「そらみん」を設置しています。



配送エリア / 市原市・木更津市・袖ヶ浦市・君津市・茂原市・鴨川市・勝浦市・大多喜町・御宿町・富津市・館山市・南房総市・いすみ市・大網白里町(季美の森南除く)・千葉市(緑区)・一宮町・陸沢町・長生村

tel : 0436-60-1583 fax : 0436-60-1510
〒299-0107 市原市姉崎海岸 43

センター千葉

組合員数
5,054人

本部とデポー真砂に隣接した場所にあります。職員・配送ワーカーズ総勢40人以上の在所です。



配送エリア / 千葉市(緑区除く)・八千代市・習志野市

tel : 043-278-7629 fax : 043-270-1985
〒261-0011 千葉市美浜区真砂 5-21-13

スワンベーカーリー柏店



tel : 04-7162-2030 fax : 04-7162-2040
〒277-0011 柏市東上町1-3 日波ビル1階

障がいのある人もない人も共に働き生きていく社会をめざして設立されたまちのパン屋さん。柏駅から徒歩10分。配達で届く予約制の「友の会」のパンセットもあります。

平日 9:00~19:00
土曜日 8:00~19:00
日曜日 定休日



くらしと家計の相談室



tel : 043-202-1471 fax : 043-202-1474
〒260-0013 千葉市中央区中央 3-9-9 エレル千葉中央ビル 304



生活再生・社会参加のための「包摂型社会」の実現をめざし、気軽に相談できる窓口をつくりました。相談から融資まで最適なサポートを行います。

受付時間
10:00~17:00
(日曜・祝日を除く)



デポ紹介

①デポ-松葉町

組合員数
1,393人

松葉中学の隣、ウェルシティビルの1階。駐車場も広く便利です。組合員とワーカーズの笑顔があふれる、和気あいあいとした雰囲気の良いデポです。移動販売も行っています。



tel : 04-7134-0697 fax : 04-7134-0429
〒277-0824 柏市松葉町3-15-1

②デポ-大津ヶ丘

組合員数
1,064人

2015年リニューアル。若い組合員が増え、コミュニティ活動が盛んです。精肉室の新設でステーキのオーダーカットなど希望に応じた対応ができ、好評です。配送サービスも。



tel : 04-7191-7359 fax : 04-7193-0341
〒277-0921 柏市大津ヶ丘3-4-105

③デポ-新松戸

組合員数
1,526人

量販店の多い地域で存在感を放っています。ピオサポマイスターの料理会やW.C.O「菜の花」も好評です。商店会の「まちゼミ」にも参加し、生活クラブを紹介しています。



tel : 047-348-1210 fax : 047-348-1220
〒270-0034 松戸市新松戸3-2-11

④デポ-木刈

組合員数
1,275人

広い店内に地域交流スペースと託児ルームを併設し、子どものようすを見ながら活動できます。地域交流スペースや喫茶室ではさまざまなコミュニティが活動しています。



tel : 0476-40-6811 fax : 0476-40-6813
〒270-1359 印西市木刈4-2-2



⑤デポ-浦安

組合員数
1,228人

震災で大きな被害を受けましたが、休まず開所し、地域の方に大変喜ばれました。今年、冷凍・冷蔵ショーケースやファサードをリニューアルし、7月オープン予定です。



tel : 047-353-0135 fax : 047-353-1319
〒279-0012 浦安市入船4-9-7

⑥デポ-真砂

組合員数
1,724人

県内のデポ-第1号。2016年9月にリニューアルし、バリアフリー化、地域交流スペースの新設、駐車場の増設でより使いやすくなりました。地域に向け移動販売も行っています。



tel : 043-278-0112 fax : 043-279-1134
〒261-0011 千葉市美浜区真砂5-21-12

⑦デポ-園生

組合員数
1,299人

生活クラブ千葉グループの複合拠点「いなげビレッジ虹と風」のなかにあり、惣菜のポナベティや地域交流スペース「虹」も併設。買い物サービスや配食にも取り組んでいます。



tel : 043-290-0090 fax : 043-290-0091
〒263-0051 千葉市稲毛区園生町1107-7

⑧デポ-みつわ台

組合員数
1,173人

千葉モノレールのみつわ台駅から徒歩5分。三角屋根と赤いひさしのかわいいお店。旬の果物や魚など試食提供に力を入れています。買い物お届け・配達サービスも行っています。



tel : 043-287-2414 fax : 043-284-1082
〒264-0032 千葉市若葉区みつわ台3-14-5

* (仮称) デポ-流山おおたかの森は、2017年秋オープン予定です。センター・デポ-の組合員数は2017年1月末現在。